

令和6年（2024年）8月1日

山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター キックオフイベントを開催します

【本件のポイント】

- 山形大学は全学組織として、令和6年4月1日に「山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター」を鶴岡キャンパスに設置。発足イベントとして、開所記念式典および記念講演会を開催します。

【概要】

山形大学は、全学の教育研究支援組織として、令和6年4月1日付で「山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター」を鶴岡キャンパスに設置しました。本センターでは、新たな視点からの土地利用・活用方法を検討し、森林資源の最大活用や野生動物管理の革新による農山村の再生を目指します。

具体的には、野生動物由来の生態リスク（生活・産業・生物多様性への影響）を特定し、人口減少時代に適合した野生動物管理システムの再構築をめざし、実装可能な対応策を検討します。また、多様な機能を有する森林を最大限に活用するために、スギ人工林だけでなく、広葉樹林の資源を多面的に活用する方法を開発するとともに、森林の多機能を価値化する指標を科学的な根拠をもとに開発・提案し、それをもとにした森林クレジットを活用した森林管理ビジネスモデルの構築を目指します。さらに、新しいコモンズ形成や集落の再生・再編を含む地域資源利用・管理のあり方を総合的に提示することを当センターの目標としています。これらの研究を進めるとともに、地方創生及び高度職業専門人材の育成にも貢献します。

このたび、当センターの開所を記念して、令和6年8月28日（水）に鶴岡市の東京第一ホテル鶴岡において記念式典および記念講演会を開催します。当センターの活動および取り組みを多くの皆様に知っていただく機会になれば幸いです。

【日時】 令和6年8月28日（水） 受付 13:00
開式 14:00

【会場】 東京第一ホテル鶴岡（鶴岡市錦町2番10号）

【式次第】

第1部 開所記念式典 14:00～14:30（会場：1階 鳳凰の間）

- 1 挨拶
- 2 来賓祝辞
- 3 センター紹介

第2部 記念講演会 14:40～16:30（会場：1階 鳳凰の間）

- 1 基調講演 演題：調整中
株式会社野村総合研究所未来創発センター長 神尾 文彦 様
- 2 研究紹介 各部門の紹介
野生動物研究部門長 教授 江成 広斗
安全・健康研究部門長 准教授 西山 正晃
生活・経済研究部門長 教授 林 雅秀
森林資源管理研究部門長 教授 林田 光祐

担当：鶴岡キャンパス事務部総務課研究・社会共創室

TEL：0235-28-2909

メール：yu-nosenken@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学農山村リジェネレーション共創研究センター

—新しいコモンズ形成による野生動物管理と森林資源の最大活用で魅力的な農山村に—



組織の概要

土地利用の再配置を基軸としたバックカスティングによって、森林資源の最大活用と野生動物管理の革新による農山村の再生を目指す。具体的には、人口減少時代に適合した野生動物管理システムの再構築をする。森林の多機能を価値化する指標をもとにした森林クレジットを活用した森林管理ビジネスモデルの構築を目指す。さらに、新しいコモンズ（共有地）形成や集落の再生・再編を含む地域資源利用・管理のあり方を総合的に提示することを当センターの目標とする。

必要性

人口減少が進む時代を迎え、日本の農山村や地方都市では農林業の担い手不足や地域経済の衰退だけでなく、日常生活の維持も困難になりつつある。地域が抱える問題（野生動物被害、荒廃する森林、限界集落、人畜共通感染症など）は多様であり、かつ相互に関連しているため、現在の課題を一つずつ解決する方法ではすでに手遅れの状態にある。

これまでの成果

山形大学には、特定鳥獣保護管理の分野では日本を代表する研究者や、共有林と対象としたコモンズ研究の第一人者など、農山村が抱える諸問題の解決に貢献できる研究者が多く在籍している。



地域の課題

農山村のリジェネレーションは、これまでの課題解決型のフォーカスティング的な対策からは決して生まれない。土地利用の再配置を基軸としたバックカスティング的な地域づくりへのパラダイムシフトを早急に実現し、新たなコモンズ（共有地）の形成によって、野生動物との接点を減らして安全・健康を確保するとともに、地域資源を活用したエネルギーの自立、炭素固定能を活用した森林資源管理の自立が求められている。

閣議決定等

（骨太方針2023）デジタル技術を活用した農山漁村の課題解決のための枠組みの創設を行う。土地改良事業により農地の大区画化や汎用化・畑地化を進めるとともに、鳥獣対策、家畜疾病対策を推進する。

（第六次国土利用計画）国土利用・管理の基本的な3つの基本方針に貢献する：①地域全体の利益を実現する最適な国土利用・管理、②土地本来の災害リスクを踏まえた賢い国土利用・管理、③健全な生態系の確保により繋がる国土利用・管理



人口減少地域における
野生動物管理による
安全・健康の確保

産官学による
森林クレジットの創出・流通

期待される成果



やまがた社会共創
プラットフォーム

地域の課題解決のための学部横断型研究へのニーズが高まる。



持続可能な社会を目指した研究が
加速される。



YAAS

食と環境を繋ぐ研究が活性化される。



Tsuruoka City
鶴岡市



野村総研

SDGs未来都市鶴岡
デジタル化推進有識者会議
（デジタル田園都市国家構想
関連交付金に選定）

本研究センターの基礎となる組織の位置づけ・役割

現在の課題

- ①社会的な背景・必要性: 人口減少が進む時代を迎え、日本の農山村や地方都市では農林業の担い手不足や地域経済の衰退だけでなく、日常生活の維持も困難になりつつある。人口減少社会における持続可能な地域づくりには、地域の基盤となる一次産業や農村経営に関わる高度な知識・技術を身につけ、地域課題を理解するとともに地域の将来像を描くことができる人材が必要である。
- ②主たる地域課題として、近年各地で野生動物との軋轢が表面化している。特効薬のないマダニ感染症や新型コロナウイルスに代表される人畜共通感染症の問題も、野生動物に深くかかわっている。農学部においては、これまで「東北野生動物管理研究交流会」を主催するなど先進的な研究成果を提供してきた。また、森林資源管理への先端技術の導入の研究も進めており、今後の農山村活性化のためには、産学官連携による新技術開発に裏付けられた森林の多面的機能の金銭価値化とそれを地域に社会実装する仕組みづくりが重要である。

「農山村リジェネレーション共創研究センター」

村山センター長、渡部戦略企画室長、林田同副室長、農学部を主とする5学部16名の副担当教員で研究を開始

野生動物研究部門

森林、農地、宅地の変化による影響を調べるために、野生動物の生態を考慮した生息地予測、人間とのかかわりの中での加害性予測、マダニ感染症の媒介に関する調査を行う。あわせて、効率化・低コスト化を可能とする野生動物モニタリング調査の新たな技術開発を行う。

安全・健康研究部門

野生動物由来の感染症のリスク評価研究を行う。野生動物の生息地の変化がマダニ類が保有する病原体や薬剤耐性菌による汚染にどのような影響をおよぼすか調べる。また、地域社会ニーズの影響として、斜面崩壊（土砂崩れ）のリスク評価研究も行う。

森林資源管理研究部門

スギ人工林だけでなく多様な広葉樹林の森林バイオマスの推定手法とその脱炭素機能（カーボクレジット）の定量手法の開発を行うとともに、森林が有する生物多様性保全、土砂災害防止などの機能を総合的に評価する方法を開発する。

生活・経済研究部門

新しいコモنزの提案とそれに関する合意形成に関する研究を行う。また、集落の再編の成功条件や外部人材および先端技術が果たす役割を評価する。さらに、統合的アプローチを用いた新たな地域資源利用・管理のあり方を提示する。

研究成果の社会実装

人口減少時代に適合した森林・農地・住宅地・道路を含む土地利用のデザインを検討し、新しいコモنزを含む地域計画の指針を提示